

平成30年度 第2回宝塚市総合教育会議

- 1 日時 平成30年10月11日（木） 14：45～15：30
- 2 場所 宝塚市役所3階 特別会議室
- 3 出席者 （構成員）中川市長、森教育長、篠部教育委員、川名教育委員、木野教育委員、望月教育委員

（事務局）教育委員会事務局理事、企画経営部長、管理部長、学校教育部長、政策室長、管理室長、学校教育室長、政策推進課長、政策推進担当課長、教育企画課長、学校教育課長、社会教育課長、政策推進課係長、教育企画課係長

4 内容

■開会

■中川市長 挨拶

皆様、こんにちは。ただいまより平成30年度第2回総合教育会議を開催させていただきます。この総合教育会議は、教育委員会と地方公共団体の長が地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、お互いに連携しながら教育行政を推進していくために開催をしているものであります。日ごろから本市では教育委員会と市長との良好な関係を築いていくために皆様に御協力をいただいているわけがございますけれども、この会議を通じて忌憚なくいろいろな意見交換をいたしまして、より良い教育環境をつくっていくために私どももしっかり取り組んでまいりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

まず今日の議題についてお諮りいたしますが、宝塚市立小学校及び

中学校の適正規模及び適正配置について、特に今日は中山台地区における学校規模の適正化が議題となっています。平成28年、今から2年前の3月に市立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針というのが策定されまして、これに基づいて設置された中山台地区教育環境適正化検討委員会から小学校の統合を中心とした意見書が教育委員会へ提出されました。これを受けて今後中山台地区の学校規模の適正化をどのように進めていくか、具体的な計画案が作成されることとなりますが、本日はその方向性について意見交換をしていただければと思っております。

宝塚市の学校園の教育環境を良くするための大変重要な事項になりますし、まだ他にも課題がたくさんありますので、一つ一つ議論しながら解決をしていきたいと思っておりますので御意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

■ 傍聴

○中川市長 それではまず最初に、この会議は公開を原則としておりますので、既に傍聴人の方が一人入室していただいております。傍聴に関しては地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び宝塚市総合教育会議運営要綱のとおり運用するというところでよろしいでしょうか。それで決定をしていきたいと思えます。

そして先ほど申し上げました議題につきまして、本日これを議題として議論を進めていくということで異議はありませんでしょうか。

（「はい」と言う者あり）

○中川市長 よろしいですか。ありがとうございます。

それではまた、その他のところで出されたものに関しましてやむを

得ず非公開とする場合が出てくるときにはその段階でお諮りしたい
と思いますので、それでよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○中川市長 では、そのときは傍聴人の方には退席をお願いしたいと思いますが、
この最初の学校規模の問題に関しては傍聴の方にしっかり聞いてい
ただきたいと思います。

では、会議を進めてまいります。先ほど申し上げました宝塚市立
小学校及び中学校の適正規模及び適正配置についてということで、
中山台地区における学校規模の適正化に議論を進めたいと思います
ので、事務局から説明をお願いいたします。

■ 議事

議題 1 宝塚市立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置について ～中山台地区における学校規模の適正化～

(資料に基づき、事務局から説明)

○中川市長 説明は終わりました。今日は現地視察をしてきてくださったのです
ね。

○委員 はい。

○中川市長 学校間の距離ですとか規模ですとか。子どもたちは勉強していまし
たか。

○木野委員 教室は覗いてないのですが、勉強はしていました。

○川名委員 人権教育などがあって、子どもたちは体育館に集まっていた。
今日は特別なプログラムでしたので。

○中川市長 そうですか。そしたら今、事務局から話がありましたが、この件に

関してこの会議で話題にするのは初めてのことなのですが、検討委員会もでき、一定の方向性がこれからしっかり決められようとしておりますので、この会議での議論を大切にしたいと思います。何でも結構ですので、御発言をお願いしたいと思います。

そしたら順番という感じでも良いですかね。感想を含めて、木野委員はいかがですか。

○木野委員 今日両校を見てまいりまして、どちらも良い環境のところであり、子どもたちにとっては良い環境の学校だなという思いで見ました。統合となると、どちらかがなくなってしまうという寂しい思いは恐らく、児童とか保護者さんとかにもあるのだらうと思いますが、統合の答申に出ていますけれども、どうしてもやらないといけないということなのでしょうかね。

○中川市長 結構長く議論し、でもやはり議論ばかりしていてもというところがありますので、議論していることが噂みたいな感じで、来年度になくなるらしいとかいろいろな不安ばかりが子どもさんを通していらっしゃる保護者の方からは言われますので、一定、皆さんにも見える形で出していかなければいけない時期にそろそろ来ているという感じではありますが、その卒業生は特に寂しいですよ。

そんな感じですか。

○木野委員 はい。ありがとうございます。

○中川市長 ありがとうございます。

川名委員はいかがでしたか。

○川名委員 今、木野委員もおっしゃいましたが、変わらない方が恐らく良いのですよね。何かを変えることは大変だと思うのですが、ここ数年ずっと議論をしてきて、かつて住宅地が造成されて人口が急増した地

域が今高齢化してという、やはりそういう社会の大きな変化の中で学校も変わっていかざるを得ないのかなというふうに思っています。今日は実際現地も見て自然豊かなところなのですが、子どもの数があまり減ると切磋琢磨するにはある程度の規模が要るなどか、そういったことを考えますとより良い環境を維持していくためにはこちらでも変化を受け入れ、また多くの子どもたちや保護者の皆さん、先生方にも受け入れてもらわないといけないと思います。メリットがあれば統合するのですが、デメリットがあれば、そのデメリットはできるだけ小さくしたり不安を和らげたりしていくということを考えながら、市全体を見回すと統合もやむを得ないのかなというふうには思います。

これについては、数年ずっと議論をしてきまして随分地元の方々にも事務局のほうから丁寧に説明を行い、とりあえずごり押しみたいにならないように、それは注意しながらずっと進めていっていただいているので、そろそろ実行していくときなのかなと思っています。

○中川市長 ありがとうございます。

また御意見があったら、どんどん出していただいでよろしいでしょうか。何でも結構です。

○望月委員 地図を拝見すると非常に五月台小学校校区のいびつな形というか、ちょっとここは不自然な形にしていますので、統合してくことで図れるものはないかと思うんですけども、もともと長尾小学校というのは今でもマンモス校ですけどもそこを分校にしていってふやしたというように聞いたので、長期的に見ていくと桜台小学校ですら、いずれ長尾小学校に戻していかなくてはいけないようなことになってしまうのかなと、ちょっと懸念ではないですけど。そういっ

たことを感じる部分がありますね。

やっぱり山の上に隔離されているような状況の学校というふうに、2つの学校を建てている、何かやっぱりちょっと非常に隔離したところには特別な学校という感じはしましたので何か活気のようなものがいずれ失われていってしまう部分かなと思いました。

○中川市長 ありがとうございます。

篠部委員、いかがでしょうか。

○篠部委員 今日、現地を見せていただいたのですが、両方とも見るとそれぞれの良いところとか問題点なんかも見えてくるんですけども、どっちかにするというのはなかなか難しいなというのが正直なところで、通学するに当たっていくと通学路というのは距離のようなもので表しているんですけど、山の中でものすごく坂道なのですが、同じ距離と言っても坂を登ったり下りたりというのはかなり通学する児童さんには負担になるのかなと思いますので、そのあたりも考慮していかないといけないなと感じました。やはりでも、この表で見ていると、人数の差というのは市内でかなりあるので、ここの小学校だけ他の市の小学校とあまりにも環境に差があるというのはちょっと良くない部分もあるのかなと。もちろん少人数制でやっていくというところの利点もあると思うのですが、そこは余り差がつかないようにしていった方が良いのかなというふうに思います。

○中川市長 ありがとうございます。

教育長、どうでしょう。

○森教育長 今日は主に学校の設備環境や校舎の様子とか、それからその周りの環境とか、子どもたちの通学路がどうなっているのか、というところを一緒に見ていただいたのですけれども、今年度はまたオープン

スクールなんかで子どもたちの学習の様子というのも見ていただいて、それでまた五月台小学校の子どもたちの学習の様子、また桜台小学校の子どもたちの様子というのを見ながら、教育委員会の中でも議論していきたいなと思っているのですけれども、この適正化検討委員会から意見書が出ていますが、これは保護者の方と地域の方が構成された委員会の中で、中山台のほうは地域のことは地域で決めるとした中山台の考え方がこの意見書にまとめられているので、この思いを大切にして教育委員会のほうでは計画を策定していきたいなというふうなことは考えております。

○中川市長 ありがとうございます。この間、検討委員会の副委員長だったかな。議論の中間報告ということでいらしてくださって、ちょっと話し合いをさせてもらったのですが、やはり概ね今の委員の皆さんの御意見と一緒に、なくなることは寂しいけれど、やはり切磋琢磨という言葉がさっき出ましたけど、良いところは良いところであるけれども時代の流れの中で統合やむなしのような方向で話し合いが進みつつあるというふうにはおっしゃっていらっしゃいました。宝塚市は今までつくるばかりというか、このように閉校とか初めてのことで私どもも教育委員会と同じですけれども、皆さんの気持ちはどうなのだろうか。たった3人になっても2人になっても続けるべきかとか、そんな意見はないのですが、いろいろな思いがあります。今日は結論を出す、そのような教育会議ではないのですが、大体また今度オープンスクールとかあるということですので、やはり望月委員がさっきおっしゃいました、通学路というか、山からこう、あれが子どもたちにどれぐらいの負荷があるかとかですね。それは幼稚園にも同じことが言えて、幼稚園の方は手段を講じないと

いけないということはあるのですが、このような中山台が今、問題になっていますが適正化ということで何かまた御意見ございましたら出していただいて、この際今後の参考にもさせていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。適正化というか、なかなか難しいですよ。

○川名委員 通学路はどちらの学校も坂道ですよ。だから大きく平地から坂道に変わるわけではないのでどっちにしても坂道で、歩道みたいな柵もきちんとありましたし、その辺は何とか対応していただけるのではないかなと思っておりますが、その統廃合とは別に最近ちょっと話題になっている小学生が背負うランドセルが重すぎるとか、そういったことも合わせて考えて通学の負担を減らすようなこと、それも合わせて議論をしていきたいなというふうに思います。坂道はもう平たくはできませんのでね。丈夫になっていかもというような若干そういう良い面もあるので、別のところで物すごく重い荷物を背負いながら毎日通学するというようなことが、これが平地であれば、坂道であれば良いのかどうかということは考えていきたいと思っております。

○中川市長 他にどうでしょう、御意見ありますか。

○篠部委員 話し合いというか、この話をまとめていくのは当然保護者の方と、地域の方と、というふうになっていくと思うのですが、やはり実際登校する、通うのは子どもたちですので、大人が納得してじゃあこうしましょうと決めただけではいけないと思うのですよね。だから子どもたちにも納得した上で通学してほしいので、その辺のケアというの、同時に少しずつ交流会をすとかという形で溝を埋めていったほうが良いかなというふうに思っています。

○望月委員　　良いですね。運動会、遠足をぜひ一緒に行った方が良いと思います。

○中川市長　　そうですね、学校間のね。事務局に聞きますが、子どもたちのとっても大事なお話だと思うのですが、大人が決めつけて押しつけるというより、子どもたちが通うわけで、主人公は子どもですのでこのあたりの子どもの納得や学校同士の交流会、そのあたりはどのように考えているのかということと、そして川名委員からも出た、子どもたちからも悲鳴のように言われている荷物の重さですね。置き勉をどうするのかとかですか、それもなかなか改善が目に見えないのですが、この2点について説明をお願いします。

○事務局　　子どもの意見ということなのですが、これ実は中山台地区教育環境適正化検討委員会の中で、何度か御議論になったお話であり、この説明会の場でも出たお話なのですけども、子どもたちに意見を聞いたのか、という質問もありました。実はその参加されている方の中で実際に子育てをされているお母さん、複数人の方から御意見がありました。この大切なこと、子どもはなかなか決めにくいのでここは親が地域が責任を持って子どもの教育環境を考えていこう。そこで子どもの意見というよりも親が子どもをおもんばかって、十分子どものことを思い描きながら、方針はやっぱり地域で大人として考えていきましょう。ただ、それに向けて取り組みを進めていく上では十分子どもたちが違和感なく統合されるように、交流できるように大人たちが子どもたちの意見を聞きながらいわゆる交流事業、先ほども望月委員から発言がありました、遠足を一緒に行くとか、あるいは体育の授業を一緒にする。それが発展して運動会も一緒にやっっていこうということで事前に、2つの学校を1つにつなげるような活動をしていって、その壁を取っ払って子どもたちが自然に馴染

むようにしていくべきではないか。そこではしっかりと子どもたちにどんなことをしたいのか、ということは意見を聞きながら進めていってはどうかということですので、今後はそういった交流事業も含めてしっかり地域と子どもたちの意見を聞きながら進めていかないといけないというふうには考えております。

○中川市長 その運動会とか文化祭の交流とかは、やるのでしたら早くやった方が良くと思うのですが、大体いつ頃からやる予定になっているのでしょうか。

○事務局 実はまだ最終的な計画というものが出ておりません。これを何としても早期に計画を出させていただいたら、すぐに準備委員会というものを立ち上げたいというふうに考えております。これはそれぞれの分野ごとに交流事業であれば教務の専門部会、これは先生方や一部保護者の方も入っていただいて、事前にどんな交流をしたら良いのか。これはPTAも1つになっていただくわけですから、PTA、交流部会、地域もそうです、スポーツ団体もそうです。いろいろな分野ごとに2つの学校を1つにまとめるための準備委員会を、できればこの秋にでも設置して方針を出して、すぐにその取り組みを進めていきたいというふうに考えており、まずは我々の統合計画を早急に作っていきたいと思います。

○中川市長 ランドセルの荷物が重いのは、どうでしょうか。

○事務局 「荷物・かばん重たい問題」というふうに事務局では言っているのですが、部会でもこの間もありましたけれども、この問題については学校教育部でもしっかり認識をしております。まず、中学校につきましては各学校でも大分工夫はしていただいているのですが、まだまだ改善できる余地はあるだろう、というふうに考えております。

現在各学校に指導主事を派遣しており、どういう状況であるかという、現状の確認を進めているところです。ただ学校長からも意見を聞かせていただいてどういう取組ができるのかということは今、検討しております。それから小学校につきましても、学校もこれは課題だというふうに感じていただいております、重さだけではなくて小学校の場合は手提げ袋を持ちますので、両手が塞がるということについて、学校の方は重さよりもそちらのほうに意識を持っておるところです。第一小学校のほうは、大分置くスペース等の工夫をされていまして、図工の道具や音楽の道具や習字道具やというのは一応学校に置けるように進めているところが多いです。ただ、棚が少ないとか、決まった給食エプロンであるとか体操服だとか上靴だとか、衛生上持って帰らさないといけないものと、日常の学習道具との折り合いをみて、何曜日に持って帰らすとか、その辺の工夫をしながら子どもたちの両手を塞ぐことを防ぎながら重さの改善をしていくというところです。小学校のほうも指導主事を派遣しまして、状況を確認して、どういう改善ができるのかということをもまずは事務局の中で検討し、学校と連携しながら通知簿等も出していく方向で進めているところです。具体的にこれをしますというところまではいってないのですが、現状を改善していかなければいけないという認識は持っていますので、これからも取り組みを進めていきたいと思っております。以上です。

○中川市長 今の話で御質問等あれば。

○川名委員 また実態調査したら教えていただきたいですが。今なんかラン活という言葉もあって、今ごろランドセルを皆、大体祖父母が買うことになっているらしいのですが、今ごろデパートに見に行き注文をし

ないと手に入らないみたいな感じで。今もう、デパートでランドセルの広告がすごいですよね。入学は喜び事ですし、ランドセルを作っているメーカーもあるから、あまりランドセルの邪魔をしてもいけないけど、やはり革って何も入ってなくても重いんですよね。だからもっとあの形で軽いものにできるといいのではないかと思うのですが、なかなかそういったことも言いづらくもあり、難しいなあというふうに思いながら、どうやって、まだ骨も骨格もしっかり固まらない子どもたちに重い荷物を持って毎日行き来というのは、ちょっと世界にも例がないようですから、やっぱりこれは何か改善をしていかないといけないと思います。そのためには、現状どうなっているか調査してくださっているということなので、その報告をまとめていただくのを受けて、また考えていきたいなと思います。

○中川市長 交流の、そういうのに他の御意見ありましたら、いかがでしょう。

今の説明のように、懸案として速やかに、秋ぐらいに交流事業を始めていくと。それで進めてもらってもよろしいですかね。

あとは、いかがですか。これに関する適正規模のことですか、西谷は今年は入学式9人でしたね、1年生。そういう西谷は特に深刻で、かわいそうなのは野球のチームもつukれないで。西谷も本当に一つの大きな課題のところではありますが、中山では小中一貫の話も出ています。その辺のことでも何でも結構ですので、もしもこういうこと考えていったらということがありましたら、御意見として出していただければと思います。

教育長もどうぞ、遠慮なく。

○森教育長 小規模校の話になるんですけども、適正規模というと、大規模校のことも一緒になって話し合っていないといけないということで、

先ほど説明がありましたように、長尾小学校と第一小学校はもう、1,000人を超える大規模校。やはり運動場も狭い。いろいろなことでこのところも考えていけないといけないし、特に宝塚小学校もどんどんと人数が増えて、ここは教室数が現状でも足りないという。だから小規模校のことも考えていけないといけないし。同時に大規模校のことも考えていけないといけないところもあって、やはりどちらのほうも議論を深めていかなければということを考えています。

○中川市長 そうですね。どうでしょう。

○川名委員 そうですね、深刻の度合いから言うと、大規模校のほうが深刻で、今年も災害も多かったのですが、万一、何かで避難となったときに、1,000人を超える子どもたちをどうやって安全に避難場所に誘導できるかというのは、もうちょっとはらはらする話ですから、こちらも進めていけないといけません。ただこれは過去の例にもあったように難しそうなので、どうやっていくかという知恵を絞らないといけないかと思えますし、それからもう少し小規模校を統合していくときには、思い切った特色ある学校づくりが必要だと思います。例えば、吹奏楽で頑張っているのをこれで売りますというようなときは、もうちょっと柔軟に校区を広く、よそから来てもいいですみたいなことも場合によってはして、そういう学校なのですみたいなことをしてもいいのかなと思ったり。その辺はまだきちんと議論もできていませんけれど、そういうことも考えながら魅力ある学校づくりをしないと。ただ人数が減ったから一緒にしますよではちょっと、なかなか納得していただけないのかなとは思いますがね。

○中川市長 いかがでしょう。

仰るように、五月台中学校は全国で金賞を取るぐらいの吹奏楽クラブがあるのですが、人数が減ってきて、今30人規模で金賞を取れるのがぎりぎりという感じで、かといって、五月台中学で吹奏楽を頑張っても、東高校とか吹奏楽部がなくなって、みんなもう県西に行ったり、市西に行ったり、吹奏楽部があるところに行ってしまうのですよ。これも関連してですが、宝塚の県立高校は4校とも全部山のでっぺんにありまして、そして自転車通学だと車代、交通費が要らないでしょ、バスに乗らなくていいので。それで安倉とか伊丹に近いところは平地なので、伊丹の高校に行くのですね。こっちはこっちで平地のところとか、吹奏楽をやりたければ西宮に行ったりとかで、やはり県立高校4校が仰るように特色がなければもう定員割れが心配されるという事態にもなってきて、いろいろな意味で特色を持たせて小中、高校ぐらいまで考えて宝塚の教育環境を見ていかないと、やはりここの校長先生などは非常に危機感を持っていらっしゃるけど、向こうは県立高校なので、宝塚市立とはもう、ぱさっとそこで縁が切れていることも一つの課題だというふうには思っています。

○篠部委員 今日現地を見たんですけど、やはりそこそこ年数がたっているので、建物はかなり老朽化はしている感じなのです。今日こういう天気だから余計そういうふうを感じるのですが、ですから統廃合が決まったときに、やはりある程度手直しをきれいにしたほうが、割と子どもたちは機嫌よく行ってくれると思うのですよね。そういうのがあると思うので、その辺はどうしても少し手直ししないといけないのかなというのは感じました。

○中川市長 桜台小学校は、いつ手直しですか。

○事務局 桜台小学校については、もう一定の改修を終えているのですが、特に今日各委員が気になったのが、外壁の汚れですよね。雨垂れ等があつて、相当黒くなつたりしているのです。それと、あと子どもたちが行き来する校舎周りのアスファルトの部分が相当でこぼこして、見た目にも安全性にも課題があるなということも認識しました。トイレについては順次、洋式化への改修は進めているところで、大きくきれいに改修したトイレも少しご覧いただいたと思うのですが、全てが全てではありませんが、少しずつ整いつつあるということになるのですけども、やはり一定、統合の暁には施設整備が必要かなということも事務局のほうも考えております。

○中川市長 考えているそうです。それと、木野委員のところの子どもさんは大規模校。

○木野委員 宝小ですね。

○中川市長 宝小。望月委員のところは一小ですね。超大規模校。保護者としていかがですか。

○木野委員 この前も運動会に行ってきましたけど、準備体操もできないぐらいになっていて、もう体操するにも隣の子とぶつかるぐらいの人数なので、なかなか深刻な問題だなと。広げるにも広がりませんしね、土地は。解決策がすぐに見つからないでしょうけど、なかなか大変な問題かなと思います。

○中川市長 望月委員のところは子どもさんは第一小学校ですね。

○望月委員 1,000人を超える規模で。でも見方によっては、運動会の場合には人数が多くて盛り上がるという、そういう部分がありますので、昔の活気のあった日本を思い出すような、そういう部分もありますし、やはりある程度予算を割いて先生方とか教室とかそういったも

のをきちんと整備していけば、大規模校というのは、悪いものではないと思います。子どもたちがたくさんいるということは、子どもたち同士でも自分たちに活気がある。街中でぶいぶい言わせるじゃないですけど、ここに子どもがいっぱいいるんだよというのを、ちょっと自分たちの安心というかよりどころにしているような部分もありますので、本当にある程度ちゃんと手だてをすることは必要ですけど、それがあるのであれば大規模校というのは若干メリットというのはあると思います。

○中川市長 小規模校よりも。

○望月委員 はい。小規模校。100人を割るような学校というのはちょっと不安にもなりますよね。自分たちの顔が全部わかっているという部分はありますけども。子ども少ないなというようなところがですね。

○中川市長 そうですか。本当に宝塚の場合は、山の上とニュータウンと、そしてわりと新しく、30代とかの流入というのは山手台ですとか、宝小とか。でもその末広と違って言うともものすごく広いのに過小規模校ですよ。

今日は校区の、特に中山台の話をしていただきました。この件につきまして、他に何かよろしいですか。他に特になければ今日はこれで終わらせていただきたいと思いますよろしいでしょうか。

どうもお忙しい中、ありがとうございました。